

一般社団法人レジリエンス協会 2023年11月公開研究会「SDGs とレジリエンス」
～地域特質を活かすSDGs 取組みとレジリエントなまちを考える（京都市と高山市）～
「サステナブル評価指標(日本版)」調査の現状について

芝浦工業大学大学院理工学研究科システム理工学専攻
藤澤 青葉

【1】 レジリエンスの3資質

2015年に策定された国際的指針であるSDGsと仙台防災枠組2015-2030の2指標において、その目標に相互に関連が見られ双方に共通して基底する要素を連携力・環境適応力・次世代対応力の3つのレジリエンス資質群に分類できるのではないかという仮説を立てた。

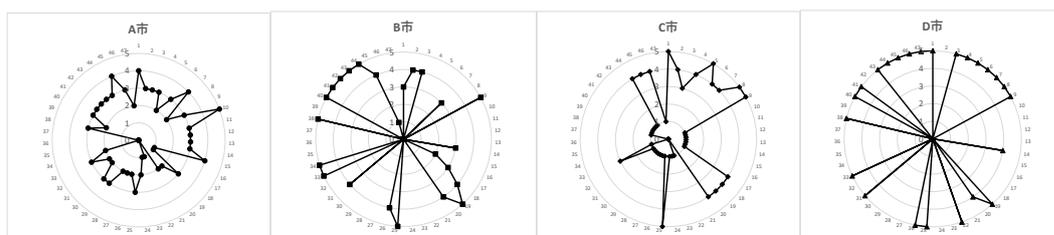
【2】 サステナブル評価指標(日本版)の役割

本研究では、UNDRR ”Disaster Resilience Scorecard for Cities (Detailed Assessment)” 評価指標118項目を参考にレジリエンスに関係する重要な3資質群への分類および43項目のサステナブル評価指標(日本版)を策定し、地方公共団体の防災担当者による評価を通して災害対策の現状を自己評価することを目的とした。また、住民向けアンケートと組み合わせることで住民の認知や防災意識と自治体の発信行動とのギャップの解消など防災レジリエンスを高めていく契機とする役割を持つ。

【3】 サステナブル評価指標(日本版)評価結果について

今回の公開研究会に際して、日本国内の4つの地方公共団体に依頼し、サステナブル評価指標(日本版)を用いた評価を実施した。得られた結果は以下の通りである。

- 調査を行った4つの地方公共団体からは個別の結果の生成に成功し、個々の特徴から各自治体の特徴を指摘することはできた。
- 実際の発生しうる災害の規模想定が必要になるリスク管理の設問で未回答・低評価が目立つ結果となった。
- 調査未実施のため評価不可能なのか、指標と異なる観点からの観測を行なっているため評価不可能なのかなどの事由を区別し、後者についてはより実情に沿った評価指標への修正に繋げることが期待される。



【4】 今後の展望

今後は、回収済みの評価結果を研究会で分析し、評価レポートを作成して各自治体へのフィードバックを優先して行う。併せて、回答者から寄せられた疑問点や評価実施の際の意見を精査し、評価指標の改善点として反映していく。